



犬の行儀作法マニュアル 第1刊

散歩で引っ張らないようにする行儀作法

お買い上げしていただき、誠にありがとうございます。

読んでいただき、愛犬を幸せに暮らせる環境の少しでもお手伝いになればと思います。また、いつか家族に迎えると考えていらっしゃる方にも今後のお役に立てればと思います。そして、動物関係のお仕事をしている方、その他犬に対する知識を取り入れていただき、手助けになればと願っております。

～目次～

「行儀作法について」・・・・・・・・・・・・・・・・ 03

「散歩で引っ張らないようにする行儀作法」・・・ 07

「散歩のルールを作るときの注意事項」・・・・・・・・ 09

「散歩時の5科目のルール」・・・・・・・・・・・・ 11

「引っ張りが始まった時の対処法」・・・・・・・・・・ 14

「拾い食い防止法」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

「途中で歩かなくなった時の場合」・・・・・・・・・・ 18

行儀作法について

犬の行儀作法とは、人間社会の日常生活に一番関係が深い生活の中での教育、ということは人間でいうと騒がない、大人しくする、他に迷惑をかけない、礼儀正しくする等々のことを言います。

その行儀作法の中では、条件や環境に合わせた「散歩で引っ張らない」「お留守番をする」「吠えない」「おすわり」「ふせ」「まで」「おいで」「もってこい」「トイレができる」の教育が必要となってきます。

ただ、物事を教えるだけではなく、必要な場面に応じて、行うことが行儀作法の大切さです。

行儀作法を教えることで、病院や美容室、その他のお店に外出したときに周りに迷惑をかけることがなくなります。また、来客者やお留守番のときの場合にも非常に役に立ちます。

人間社会に動物を家族に迎え入れるということは、まず第一に周りに迷惑をかけないことが必須になります。

行儀作法を教えないことで、周りに迷惑をかけ、飼えない状況に陥ってしまい飼育放棄になるケースが多い昨今です。

ペットだから、かわいそうだから、犬本来の生き方を、などと悠長に思っていたら、いつのまにか手に負えなくなり、これ以上飼えない状況になってしまうかもしれません。動物を人間社会と共存させることになるので、お互いのルール、そして迷惑をかけない行儀が必要となります。

そして、人間もそうですが、ある程度のモラルと行儀作法が備わっていないければ、嫌われ者になります。そして楽しく日常を過ごすことができなくなります。

嫌われるよりは好かれる方がいいし、挨拶ができないよりはできる方がいいです。そして、行儀作法を教えることによって、犬の体の成長と共に精神年齢の成長を伸ばすことができます。

万が一の事故に関しても、行儀作法を教えていれば助けてあげることもでき、命を救うことができます。

犬が走り出して飼い主から離れたとき「おいで」を教えていれば必ず飼い主の下に戻ってきます。道路に飛び出したり、そのまま行方不明にならずに済み、また走り出した勢いで他の人に飛びついて迷惑をかけてしまうこともありません。

狭い道で車や自転車、人とすれ違うとき、「おすわり」または「ふせ」をさせて「まで」をかけ、すれ違いが終わるまで落ち着くことができれば、事故や迷惑をかけることはありません。

散歩で引っ張らないように教えたら、引っ張られ転んでしまって飼い主が怪我をすることもありますし、道路に飛び出すことはありません。拾い食いをしてしまって命を落とすこともなくなります。

お留守番ができたら、安心して飼い主は外出でき、居ない間に吠えられて近隣迷惑にもならず、帰ってきたらイタズラされていることもありません。

飼い主がいないときに誤飲してしまう事故も防ぐことができます。

オモチャを咥えたら走り回ってそのまま誤飲をしてしまったり、咥えているのを放そうとしたら唸られて噛まれてしまうことも「もってこい」ができていれば、このような困りごとはありません。

吠えないことを教えてあげれば、他の人が吠えられて不快な気分にすることはありませんし、近隣迷惑防止や興奮を落ち着かせることもできます。

朝、吠えられて起こされたり、夜中に吠えられ近隣に気を配ったり焦ることもありません。

子どもや他の犬に吠えて怖がらせてしまうこともありません。吠えて興奮し、犬同士の喧嘩などトラブル防止もできます。

トイレのしつけができていれば、家の中は清潔に保たれ、臭いを気にしたり、毎回ため息をつきながら片付ける必要もなくなります。犬と一緒に友達の家を訪問したり、色々なお店に行っても安心することができます。

散歩時での信号待ちや、排泄処理中に「まで」ができれば、なにもトラブルは起きません。家の中で忙しく作業をしているときに、一定の場所で「まで」ができていれば、心配することなく作業ができます。

行儀作法の物事を教えてあげれば、問題行動は起こらず、日常生活で悩むこともなく、なにも心配しないで生活を共に歩むことができます。

そして、行儀作法を教える中で自然と上下関係と信頼関係も向上します。

おて・おかわりなどの芸を教え込む前に、お互いが楽しい生活、そして犬の幸せを導くことが大切です。

人と犬と、行儀よく挨拶ができる子にしてあげましょう。

【挨拶はコミュニケーションのスタートです】

散歩で引っ張らないようにする行儀作法

よくある散歩のときに行ってしまうのが【犬が止まって人が止まる】
ということをしてしまっています。

これは散歩をしていると自然としてしまっていることです。

この犬が止まって人が止まることを続けていると、どんどんと犬は
引っ張るようになっていきます。

では引っ張られないようにするには、どうしたらいいのか。

散歩のときもルールがあります。

しつけ相談の中で、家の中では大人しくお利口なのに、散歩のとき
や外出するときは、興奮して言うことを聞かなくなる。という内容
があります。

それは外に出たときのルールが決められていないからです。

家の中でどんなにしつけをして、お利口さんになっても、外出時で
も同じようにならなくては、しつけの意味はありません。

もちろん、家の中でのしつけも大切ですが、外に出たときのしつけ
はそれ以上に大切です。室外での問題行動は室内の問題行動よりも、
事故に繋がる可能性や他人や他の犬に迷惑をかけてしまう可能性が
遥かに高いです。

家の中でのお利口さんが、外でもできるようになって、初めてしつ
けの成功となります。

室内でも室外でも、ルールを作り事故や迷惑がないようにしましょ
う。

散歩時のルールというのは、○○○○○○○○○○○○○○○○。

【途中で歩かなくなった場合】

性格によって、対応の方法が変わってきます。

「臆病な性格で歩くのを止める」

1. 無理やり引っ張らず、人はリードの長さ分まで距離を取り、犬の前に移動して、○○○○○○○ながらこちらに来るまで誘導してあげる。
2. 歩み寄ってきたら、○○○○○○○歩き始める。



試し読みいただき、ありがとうございます。

続きは、お買い求めください。